

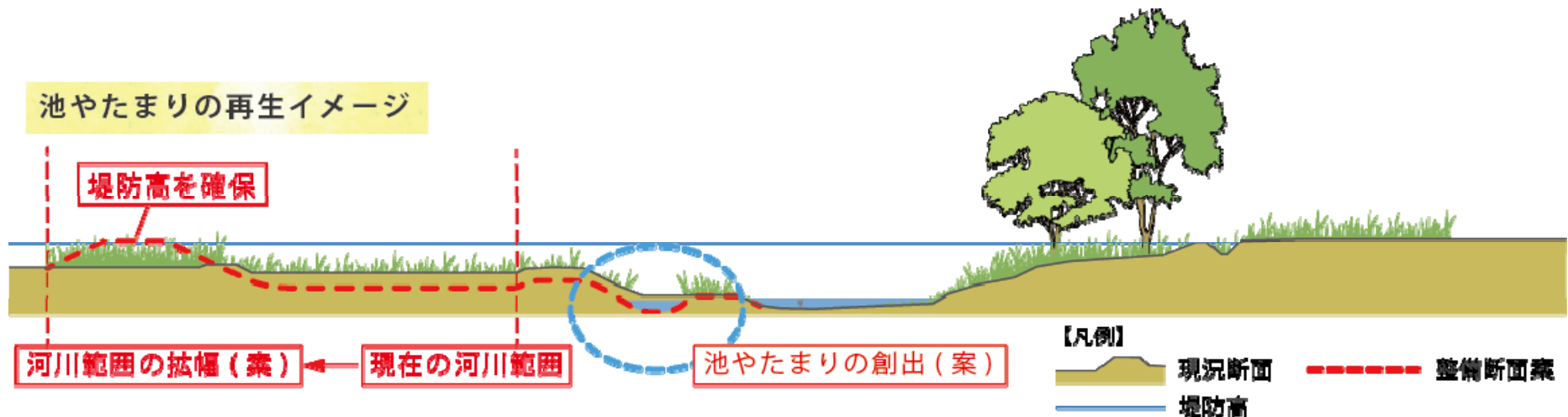
前回のふりかえり

前回のふりかえり

1. 河川用地の活用案

●事務局説明

- ・上流区間において、河川用地の範囲で池やたまりを創出する案を提案
 - 当該整備により、星川における原風景や生態系の保全と共に、地域と川の関わる機会が増えることが望ましい。
 - 一方、河川用地の活用においては、費用と維持管理が課題となる。
 - 星川とアザメの瀬とでは、用地や切り下げの規模、河川特性が異なる。



前回のふりかえり

1. 河川用地の活用案

●委員会意見

- ・一律な河川整備ではなく、池やたまりができれば、県内でも非常に良い例となる。
- ・アザメの瀬の方法や規模をそのまま星川に転用するのではなく、星川の特徴を前提としてどんな工夫ができるか考えていくことが必要である。
- ・住民の方に積極的に参加していただけるような体制を作れば、河川空間の活用や草刈り等の維持管理を連携していくことができる。住民の方々の意見を聞いて、星川に合った整備・利活用・管理方法を考えていくことが大切だ。

前回のふりかえり

2. 馬見塚橋の保全検討案

●事務局説明

- ・馬見塚橋をジャッキアップし、また左岸側にボックスを敷設することで、必要桁高と河積を確保する案を提案
 - 当該案により、川の条件(流量や高水位)面からは現況の馬見塚橋を保全できる可能性はある。
 - 一方、橋の強度や構造面からの技術的可能性については、今後調査や検討が必要である。
 - 新設橋よりコストが高くなるが、その分に対する国からの補助等の補填はできないとの回答を得ており、今後道路管理者(行田市)との協議を要する。
 - 橋が古くまた劣化が進んでいることから、現在の基準等に合わない部分も多く事故等に対し管理者としての責任についても行政として考慮する必要がある。
 - 市としては、安全面や機能面より、閉鎖したい状況であるが、市民の意向等を把握するため、アンケートや意見交換会を実施したい。

前回のふりかえり

2. 馬見塚橋の保全検討案

●委員会意見

- ・技術的な課題はあるが、県として最大限の努力を追求しようとする姿勢が大事だと思う。
- ・行田市として現状の交互通行、重量制限のままで良いのかという心配をもつことは理解できますが、委員会では、馬見塚橋が持つ価値を第一に、その価値を極力残していけるような案を皆で追求しようと議論を重ねてきました。最終的な行政としての判断・調整は必要と思いますが、これまで委員会が積み重ねてきた議論や目指す方向をぜひ受け止めてほしい。
- ・馬見塚橋も河川整備も、こうした検討をせずに従来と同じように架け替えや築堤をしたほうが早いと思いますが、皆で知恵を絞ってこういう提案をしていただいたことに感謝します。県や市だけが責任を負うのではなく、地元の関係者も一緒に馬見塚橋を保全していく可能性を最大限追求していけるようお願いしたい。

前回のふりかえり

3. 樋管の景観案

●事務局説明

- ・施工済みの水路合流部についての景観的配慮手法について説明
 - 樋管等の施設は県が施工後に管理者(行田市)に引き渡しており、改修する場合は市の施工となる。市の意見を踏まえながら進めていきたい。

●委員会意見

- ・既設の構造物への対応は手間もかかるため、今後作るものに対してコストをかけない方向で検討してはどうか。
- ・馬見塚橋のボックスについても配慮が必要である。

前回のふりかえり

4. キタミソウのモニタリング案

●事務局説明

- ・モニタリングについて、橋本委員と小学校に説明に行ったが、事故があった場合に責任がとれない等の理由により、学校としては関われないとのことであった。
- ・「キタミソウを守る会」で授業の合間に説明等をするということについては了解を得ており、守る会として興味を持った参加者と進めることで検討する。

●委員会意見

- ・「キタミソウを守る会」を中心に小学生にキタミソウについて伝えていきたい。これまでは清掃活動が主であったが、年1回程度の子どもの観察会として実施したい。